



ありあけ

2021(令和3)年
12月1日(水)

「当たり前」を疑う？

校長 前嶋 正秀

先日、ある方が投稿されたネット記事を目にしました。漢字の「北」という字は、「手書きで書いた形」と「印刷された形」が異なっているということに今まで気づかず、「ずっと間違っただま覚えてきたのか!」と衝撃を受けた、といった内容の話でした。正直、私もこの記事を読むまでは、手書きで書いた形と印刷された形が違うことに思い至ったことはありませんでした(ために、実際に自分で書いた字と、印刷された字を比べてみてください。もしかしたら、「あっ、本当だ!」と思う人は少なからずいるかもしれません)。

さて、この話とはやや性質が異なるのですが、皆さんには、自分にとっての「当たり前」が、本当に「当たり前」のことなのか、考えてみたことはありますか?言い方を換えると、皆さんには「それが当たり前と思い、気にも留めていない」ことはないでしょうか。たとえば生徒の皆さんで言えば、身近な例として、

- ・親がお弁当を作ってくれる
- ・好きな部活に一生懸命打ち込める
- ・毎日学校に来て友だちと楽しく学校生活を送る
- ・ヒマな時間にゲームに興じる

などが挙げられると思います。

これらのことは文字通り当たり前のこととして受け止めている、もっと言えば「受け止めている」という意識さえないのではないのでしょうか。

ちょっと立ち止まってゆっくり考えてみると、これらのことは決して「当たり前」のことではないことに気づくと思います。おいしいお弁当が食べられるのも、部活に熱中できるのも、好きなゲームに没頭できるのも、すべて周囲の人たち、特にご家族の存在とか協力があってこそこのことです(これこそがまさに「当たり前」のこと、と言ってもいいかもしれませんね)。

ここで私が結びとしていちばん言いたいのは、「だからご家族には感謝なくちゃいけないよ」ということではありません(もちろん、常にそういう感謝の気持ちを持っていて欲しいとは願っていますが)。自分の身の回りに起こっているさまざまなことを「当然そうになっている」ととらえずに、別の角度から見つめてみることで、今まで気づかなかったことに気づいたり、見えていなかったものが見えてきたりすることがある、ということ、そしてそのように「当たり前を疑う」ことで、視野が広がったり、考えが深まったりすることを、これから生きていく上でぜひ大事にしてほしい、ということです。なぜならこれらの資質は、遠からずやって来る(いやすでに訪れていると言ってもいいでしょう)、先の見えない不確かな時代を生きていく上で、必要不可欠な要素の一つとなるからです。

さあ、まずは自分の身近にあることから「当たり前を疑」ってみませんか?

11月のご報告

本校ホームページ「最新情報」ページをご覧ください。

- 【サッカー部】活動報告 【高校新クラスの日常】第27号部活動特集 【中学2年】宿泊行事
【生徒会活動報告】クリスマスツリー大作戦!!! 【高校2年】東北修学旅行 他

*今後の予定については、急な変更の可能性もありますので、学校からのメール連絡等をよくご確認ください。

次回は1/1(土)発行予定です。(広報部)